

# 誤嚥性肺炎における 細菌叢と口腔ケア

日本歯科大学大学院生命歯学研究科臨床口腔機能学\* 菊谷 武  
日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック\*\*

## KEY WORDS

- 誤嚥性肺炎
- 細菌叢
- 口腔ケア
- 肺炎予防
- 唾液中細菌数

Bacterial flora and oral care in  
aspiration pneumonia.

Takeshi Kikutani (教授\*, 院長\*\*)

## はじめに

高齢者の誤嚥性肺炎予防に口腔ケアが有効であるといわれて久しい。口腔ケアは、誤嚥性肺炎のメカニズムに相当する「口腔・咽頭の細菌叢」を改善し、「誤嚥」を防止し、そして「個体(患者)の抵抗力」を強化する役割が期待される。特に、感染源対策としての口腔ケアの効果は大きい。しかし、これまで、口腔ケアをすることに効果が認められていても、「いつ」、「どのように」するか論議が進まない。超高齢社会における誤嚥性肺炎対策としての口腔ケアは、どんな役割を期待されているのかまとめた。

## I. 誤嚥性肺炎について

長期療養型病床群や介護施設に入所している高齢者にみられる肺炎、すなわち、医療・介護関連肺炎(nursing and healthcare-associated pneumonia ;

NHCAP)と呼ばれる肺炎のなかには、誤嚥と強く関連するものも多くみられると考えられている。Teramotoら<sup>1)2)</sup>は、70歳以上の肺炎入院患者において、80.1%の者に誤嚥が認められ、なかでも寝たきりの高齢者においてはそのほとんどに誤嚥の関与が疑われたとされている。さらに、Komiyaら<sup>3)</sup>は、639名の肺炎患者の30日後の死亡予測因子として誤嚥性肺炎が最も強くあげられたと報告している。超高齢社会における要介護高齢者に対する誤嚥性肺炎対策は、喫緊の課題といえる。

## II. 誤嚥性肺炎に関連する細菌叢について

Ishidaらの市中肺炎(communitary-acquired pneumonia ; CAP)とNHCAPによる入院患者の原因微生物に関する報告<sup>4)</sup>では、特にNHCAPにおいて、肺炎球菌やグラム陰性桿菌、MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)を含む